

第5回長野市総合計画審議会（H18.6.6）議事の内容

議事（1）

第四次長野市総合計画基本構想の素案について事務局から説明

- ・まちづくりの視点の視点2に、『北陸新幹線の延伸を踏まえ、なお活気ある“ながの”であるためには』とあるが、この『なお』という言葉には、どのような視点が入っているのか。  
今後、相対的に長野の地位が下がっていくという危機感はあるが、今と同様に長野に活気があるようにということで『なお』と付けている。
- ・敢えて『なお』を付ける必要はないと思う。長野に活気がないとする必要はない。活気がないというよりは、活気があると取っている。今後、活気が削がれていくような危機的な状況になっても、今ある活力を保っていきたいという意味で『なお』としている。『より』という表現でも良いかと思うので、検討したい。
- ・3ページの4行目に『観光交流や産業の振興により、外部の活力を引きつけ』とあるが、外部の活力を引きつける観光交流とはどのようなことなのか。  
観光地を回るだけの観光から、今後はそこで何かを感じたり体験したりする部分の交流が出てくると考え、外の資本を長野の中に引きつけていくということがますます重要になってくることから、このような記述をしている。
- ・『地域を愛する「人」の存在をまちづくりの力とし』とはどのようなことか。言葉としてイメージがつかない。『地域を愛する「人」の力をまちづくりにいかし』とした方が良いのではないか。  
ここは元々「地域力」「人間力」としていた部分である。「地域力」には、地域が持っている観光資源や教育力、都市のインフラなども含まれる。そういった地域の力をますます膨らませていく存在が人材、人の力ではないかと考え、「人間力」を『地域を愛する「人」の存在』と記述したが、『地域を愛する「人」の力』としても検討していきたい。
- ・『観光交流』という言葉は、なぜ観光と交流が一緒になったのか。視点2には『産業と観光と地域が一体となり、交流し引きつける』となっている。観光だけが交流ではなく、観光も産業も交流もということだと認識しているが。  
交流そのものについて、事務局で検討したい。

- ・ 整合性を持ったものにしようとしていると思うが、訳の分からないものになっている感じがする。もう少しすっきりと、論理の通るように整理をする必要があるのではないか。
- ・ 視点2の『「地域」の魅力とそれを支える「人」の力で』という部分は、地域を支えるのではなく、地域を形成するのが住民、或いは住民の力であると言い換えたらどうか。
- ・ 『産業と観光と地域が一体となり、交流し引きつける、訪れてみたくなる地域づくり』という部分は、何と何が交流し、何を引きつけるのか。誰が訪れてみたくなるのか。その辺りが抜けているし、敢えて言っていない。その後の文章も難しい文章になっている。
- ・ 『歴史や文化、雄大な自然、オリンピックなどで得た資産や成功体験など、“ながの”の特徴を地域づくりにいかし』とあるが、それで良いのか。得たのは資産や成功体験だけか。夢のような体験をいかしたいとは素直に言えない部分もある。きちんと検証したのかという感じがする。
- ・ 『地域を愛する』という言葉は余りにも甘い表現である。簡単に『地域を愛する』と言って良いのか。地域を愛せない人や、何とかしたいと歯軋りをしている人たちの思いやエネルギーをまちづくりの力としていかしていくという視点が必要なのではないか。
- ・ 論理性を保って文章にすることが大切である。長野らしさとの論理的な部分が合うかどうかを検証していく必要がある。  
まちづくりの視点を含めて見直していきたい。反映できる意見は反映させ、誰が見ても分かりやすい表現にするために検討していきたい。
- ・ 検討とは、どのようにしていくのか。人が読む文章として、漢字の意味を取り違えている部分が多すぎる。主語、述語、特に修飾語が多く、非常に分かりにくくなっている。専門家に見てもらう必要があるのではないか。  
適正に文章の組み立てをしなければならぬ。市民の視点に立ってより分かりやすい文章にするために、もう一度読み直し、計画の策定に合わせて修正をしていきたい。
- ・ 先に固定しきれない部分があるので、何度もフィードバックしながらやっていく必要がある。
- ・ まちづくりの視点の視点2に『住んで誇れる地域づくり』とあるが、住んで誇れる人づくりをしなければ、いきなり地域づくりにはならないと思う。まちづくりの視点には、全体的にそのような人を育てようという言葉がない。人を育て、それによって長野のま

ちの人を今より多くして、長野に住んで誇れる地域になっていくという部分があった方が良い。

- ・「地域力」「人間力」の表現が変わり、分かりやすくなったと感じている。
- ・『地域を愛する「人」の力で持続的に発展する』という部分の『持続的』という言葉は、『力強く』とか『いきいきと』という方が良いのではないか。
- ・『自然や歴史・文化、風土を再発見し』という部分の『再発見し』という言葉は、『大切にし』とか『尊び』といったような、もう少し簡単な方が良いのではないか。
- ・『住んで誇れる』という部分に、自分の住んでいる地域を故郷として誇れるというような言葉が入らないか。
- ・『産業と観光と地域が一体となり、交流し引きつける、訪れてみたくなる地域づくり』という文は全て主語が違うような感じがする。
- ・1案、2案ともに下から2行目の『人口の流入と定着を促進するとともに』という部分は、広域地域や近隣市町村について考えると、積極的に促進するのは人口減少を巻き起こしてしまうのではないか。広域地域も大事という考え方もあるべきだと思う。北信地方の中で人口の取り合いをするというようなことではなく、今後、団塊世代がそれぞれの出身地に戻っていくことなども含め、人口の流入を図っていくということを考えている。
- ・『流入と定着』とは、言葉として使い分けているのか。  
『流入』は勤めなどで訪れたり出て行ったりするということ、『定着』は将来に結びついていくということ。『流入』は産業振興として、『定着』は長野の魅力であると考えている。
- ・定住人口について、長野以外の人たちが読んだ時に、人口減少の歯止めとなるのかと思うのではないか。何を言っているのかという感じがすると思う。原理、原則が違う。
- ・38万人という表現を出すことに異議がある。2案の『推計値を上回る定住人口の確保を目指します』という方が柔らかくて良いのではないか。
- ・『産業、雇用の創出や都市と自然が調和した住みやすく魅力あるまちづくりを進め』とあ

るが、そのために『人口の流出と定着を促進する』と解釈した。

- ・具体的な数字よりも、推計値を上回る定住人口を確保することが目指す方向として良いのではないか。長野の魅力が集約されてきている中で、住みやすい長野、住んでみたくなる長野のまちづくりにつながれば良いと思う。
- ・38万人という根拠を示さないまま、具体的な数値を出すのはいかがかと思う。
- ・1案の3~4行目に『本市は、県都、長野広域圏の拠点都市としての役割を担っていることから、人が集まり活力に満ちた都市を形成していくことが求められています』とあるように、人口が多少減少していても、活力に満ちた都市を形成していくことが長野市に求められていることに変わりはない。この部分は2案にいかしてはどうか。
- ・38万人という数字を出した方が良いと思う。数字的根拠をどれだけ積み上げられるかが、総合計画の実力になるのではないかと。課題や問題ごとに具体的な対策を考えた結果、38万人という数値が出てきたならば、それを語った方が力が出るのではないかと。
- ・出生率が1.25となり、一番の課題となっている。長野市が長野県の中でも中心的な役割を担っているということも入れて、38万人という目標を掲げていった方が良いと思う。
- ・団塊の世代の人たちが定住した場合、その人たちが高齢になった時に、高齢化の問題が出てくる。人口が増えれば良いというわけではないような気がする。根拠がないまま38万人と出すよりは、2案の方が良いのではないかと。
- ・基本指標が定まることによって様々な計画の基礎が固まってくる。2案のような目標にすることで、安心して住める長野市が形成されていくのではないかと。
- ・今後10年で出生率が上がる可能性は低いと思うし、38万人という人口を維持するのは厳しいと思う。
- ・「長野らしい」とは、東京などの都会のイメージではなく、自然豊かなまちではないかと考えている。人口を増やすことより、今あるものをもっと良くしていくにはどうしたら良いのかを重点的に考える方が、長野を良くする方策なのではないかと。
- ・今の状態を見ると、数値を掲げない方が良いと思う。自然増に期待をしていった方が良いのではないかと。

- ・ 13 ページのスローライフの説明について。速さに対してのスローではないとあるが、大事なのは、地域の文化や風習、特性をいかした暮らしをすることである。この捉え方はほんの一部を取り上げているだけなので、検討してほしい。

## 議事（ 2 ）

### まちづくりの目標（都市像）について事務局から説明

- ・ まちづくりの目標（都市像）検討の視点（求められるもの）に『分かりやすさ、インパクトのある都市像』とあるが、どのようなことを言っているのか。  
『分かりやすさ』とは、まちづくりの意思を端的且つ明瞭に表現すること、『インパクトのある』とは、その表現を見たり聞いたりした時に、イメージが象徴的に思い浮かんでくるということである。
- ・ 長野市として何が象徴されるのか。  
事務局の方針として、インパクトのある都市像を出していきたいという気持ちを出しているが、何が象徴されるか、意見をもらいたい。
- ・ 案 1 の『善光寺平』という括りには戸隠、鬼無里、大岡も入るのか。  
合併した地域も含め、歴史的にも文化的にも善光寺平を介して結びついているという意味で、『善光寺平に結ばれる』という表現にしている。
- ・ まちづくりの目標は、まさに第四次総合計画のメインコピーであり、計画と離れて単独で動いていくものでもあると考えると、言葉として言いたいことは分かるが、不消化という感じがする。
- ・ 案 3 の『華やかな都市文化』というのは長野市にはそぐわない表現のような気がする。
- ・ 多様な地域、文化に根ざしたという視点や、大きくなった長野市が、色々な特色を持った地域が集まって形成しているというイメージを表現として入れることができると考えている。
- ・ 安易に『潤い』とか『自然を育む』という美しい言葉を散りばめれば良いかという、そういうわけでもない。趣旨を積み上げていき、生まれた言葉がメインコピーになるのではないか。

- ・美しい言葉、聴いて耳障りの良い言葉でまとめる都市像はくさいという感じがする。
- ・三つの案には、多様な生き方、多様な価値観を地域の中で互いに認め合って共生していくとか、住民が自ら生き方を決め、自己実現していけるような都市でありたいというニュアンスの言葉が欠けている。自らが作るまちというようなアクティブな言葉がほしい。
- ・都市内分権の取組が始まり、各地域での住み良いまちづくりが一番大事だと思う。3案には地域の個性をいかすということを含んでいるので良いと思う。
- ・案1の『うるおい+交流都市“ながの”』の趣旨の『大切なものを守りながら、魅力と活力に満ちた“ながの”を、ここに結ばれる全ての人と共に創っていきたい。』というのは、市民みんなで作っていくというイメージがあって良いと思う。
- ・案1から案3の内容は、大体同じようなことを言っている。ただ文面が違うだけであると感じた。誰にでも分かる文章にしてほしい。
- ・都市像は、視点や各施策が積み重なって出てくる。その中には、変わらない長野と変わらなければならない長野という部分が必要であり、そこに長野らしさという地域の個性を表現していかなければならないが、子どもに長野を引き継いでいくという方向で考えていきたい。
- ・三つの案はそれぞれで、どれを選ぶかとなると言いにくい。
- ・案3が良いような気がするが、三つの案は、表現が違うだけでどれも似ている。検討してほしい。
- ・この三つの案でインパクトを得るのは難しい。手に取った時に見てもらえないような気がする。専門の人の意見も取り入れ、もしくは市民から公募しても良いと思う。
- ・決して全てを網羅してバランス良くやる必要はない。こうしたいという一言があれば良いのではないかな。
- ・人と自然が共生するという考え方は大事にしたい。
- ・多様性をきちんと踏まえた言葉がほしい。『交流』という言葉はとても狭く感じられる。

- ・スローガンのものを入れても良いのではないかと思う。
- ・案1から案3のどれが良いかと言われても分からない。どれも同じような気がする。
- ・長野市は、地域に根ざした歴史や文化、豊かな自然に対する農業や中核産業など、幅の広い、多様な都市であると思う。長野らしさを謳えるように、都市文化の発展とか交流都市、自然が共生するということを織り交ぜた文章にしてもらいたい。
- ・案3の『私らしく歩むまち“ながの”』という部分はいかしてもらいたい。
- ・スローライフについて。確立された生き方だけでなく、色々な選択肢があるということをもう少し強く盛り込んだ方が良いのではないか。13ページの説明は、ゆっくり、ゆったりと、というようなところだけが目立つような書き方になっている。長野としての意味づけを新たに加えると、良いキャッチコピーができるのではないか。
- ・スローライフとは、『スローライフだけではなく、スローもファーストも』と対比させているのはおかしい。
- ・まちづくりの目標は、市民から見ると最初に見えるところであり、重要なポイントでもある。

### 議事（3）

#### 各分野間の調整事項について事務局から説明

- ・『地域から広がるふれあいと交流の推進』については、以前から議論を進めてきたが、都市整備・土地利用部会では適合しないということから、行政経営の方針と教育・文化分野へそれぞれ移行する方向で進みたいと考えている。
- ・23ページの都市整備分野から教育・文化分野へ『国際化の推進』が移行することについて。他は施策がそのまま入ってきているが、『国際化への環境整備』が『多文化共生の推進』となっている。また『地域から広がる国際交流の推進』という政策は、『地域』という言葉が入っているので、環境整備が大事な部分を含んでいると思う。分野別で施策がきちんと分かれな部分があるが、決して縦割りで考えているのではなく、より適当な分野に入れるのが良いということである。基本的には主な分野に入れることになるが、どうしても他の分野と重なってくる場合に再掲、関連という表記で取り

扱っていくことについて、検討していきたいと考えている。

- ・『ユニバーサルデザインの街づくり』の内容について説明をしてもらいたい。  
参考資料 9 ページに掲げているように、いわゆるだれにでも優しい街づくりである。街づくりに関するということから、環境・生活分野から都市整備分野に移行し、取り扱う。
- ・移行がスムーズにできるように、各分野間の連携について、事務局から適切な資料の提供をお願いしたい。

#### 議事（４）

##### 第四次長野市総合計画での重点プランについて事務局から説明

- ・今、行政の中で一番大きく変わろうとしている都市内分権関連が重要になるのではないか。
- ・産業・経済分野の『活力ある農林業の推進と中山間地域の活性化』は、とても大事な部分だと思う。農業を一つの産業と見なして育てていくということを敢えてプラスしてもらいたい。
- ・都市整備分野では「コンパクトなまちづくり」がキーワードであると考えている。
- ・行政経営の方針の 021-01 『都市内分権の推進』について、地域主体によるまちづくり計画や地域福祉活動計画を行政経営の柱に据えるという合意ができていたように思うのだが、いつの間にかどこかに埋もれてしまっている。説明をしてもらいたい。  
都市内分権の中の主な取組には、地域主体によるまちづくり計画、地域福祉活動計画の策定と実現の支援ということを盛り込んでいる。保健・福祉分野の『自分らしく生きられる社会の形成』の中に 132-01 『地域福祉の推進』とあるが、福祉分野でも取り扱うということで位置づけをしている。
- ・行政経営の方針の 021-01 『都市内分権の推進』の下に出てくるということか。  
主な取組として位置づけている。
- ・次代を担う人たちの教育、人づくりを継続的に力強く主張し、大きく取り上げる必要がある。